



おかもと 翔太さん(福岡市・28)

以前は、愛知県でIT関係の仕事に勤めていました。もともと植物を育てるのが好きで、自宅でハーブなどを育てて楽しんでいましたが、コロナ禍の中、農業を生業にしてみたいという思いが高まり、福岡県内の就農施設を見て回った結果、一番環境が整っている就農支援センターを選びました。将来は、これまでに培ったITの知識を生かし、農業に対して何か面白いことをやりつつ、地域に還元できればと思っています。



しうご 知典さん(福岡市・30)

イチゴや米を栽培していた祖父の姿を見ながら育ったので、農業をやってみたいという思いは幼い頃からありました。以前は飲食店に勤務していましたが、コロナ禍で厳しい経営が続く中、農業の道を目指すことに決めました。就農について相談しようと思い、市役所に行ったとき、6期生の川島さんに偶然お会いして就農支援センターを紹介されたことも入所のきっかけとなりました(笑)。就農するからには、地域で一番のイチゴ農家を目指したいです!



きむ ゆんす 金 允洙さん(韓国釜山市・45)

2002年に来日して以来、デザイナーとして東京都内で働いていました。コロナ禍で在宅勤務など働く環境が変わったことで転職を決意。「何か手に職をつけたい」という思いで、昔から興味があった農業の道を選びました。就農し軌道に乗れば、いずれ釜山にいる両親を呼びたいと思い、ハ女で就農することに決めました。最初は妻と一緒にスタートします。地域に溶け込みながら、ハ女産イチゴや農業の魅力をPRできればいいなと思っています。



7期生 就農への想い



いけり 大祥さん(八女市・35)

以前は、北田形の製茶園に勤めていました。経営者である勤め先の先輩を尊敬していて、自分も独り立ちして農業をやりたいという思いが強まり、先輩に相談すると快く背中を押してくれました。娘はイチゴが大好きで、妻も就農に賛成してくれました。まだ、入所して数日ですが、同期の皆さんは面白いですね(笑)。この1年、悔いの残らないように研修に励みながら、同期の仲間たちと切磋琢磨していきたいです。

コロナ禍で在宅勤務が増えたことで、将来について考える時間が増えました。「本当に自分がやりたいこと」を考える中で、昨年、父が始めたアスパラガスの収穫の手伝いを楽しいと感じたこともあり、就農を決意しました。農業の魅力は、全部自分で考えた結果、成果が返ってくるところだと思います。就農後は家族と一緒に協力しながら、人が集まれる農業をやりたいです。地元の広川町に恩返しができるよう1年間頑張ります!



わたなべ あきひと 渡邊 彰仁さん(広川町・31)



就農を志す5人が入所 JA就農支援センター7期生

第7期生が就農へ向け研修をスタート!

JA就農支援センターでは、新たに就農に意欲を燃やす第7期研修生5人が入所しました。5月31日に開いた入所式では、JAや行政などの関係者らが見守る中、5人がそれぞれの意気込みを語り、就農へ向けて研修がスタートしました。



第7期生は、イチゴ生産者を目指す池尻大祥さん、岡本翔太さん、金允洙さん、城後知典さん、渡邊彰仁さんの5人です。研修生は1年間、ハ女市平田の就農支援センター内のほ場実習や研修棟で行われる座学を通して栽培の知識・技術を学びます。

実習では、農機具や生産資材の使用方法をはじめ、準備・管理・収穫といった栽培に関するすべての作業を研修。また、座学では土壌分析と施肥設計、農薬取締法と農薬系統の種類の簿記や税務、融資と補助事業内容などを学ぶ他、就農に向けた経営計画の作成なども行います。

研修生の渡邊さんは「この1年間コロナ禍で考える時間が増え、本当に自分が何をしたいのか、どうやって生活していきたいのか考えた末に研修生として志願しました。1年後は6期生の皆さんのように、胸を張ってセンターを退所できるように、同期のみなさんと切磋琢磨していきたい」と話しました。